

令和7年度 学校図書館活用推進 実践報告



新潟市東曾野木小学校

(1) はじめに

東曾野木小学校では、学校図書館がすべての児童にとっての「学びの拠点」となることを目指し、今年度は一人一人のニーズに応じた読書環境の整備、図書館を活用した授業実践、各種教育との連携に重点を置き取り組んだ。

学校図書館の3つの機能における本校の取り組み

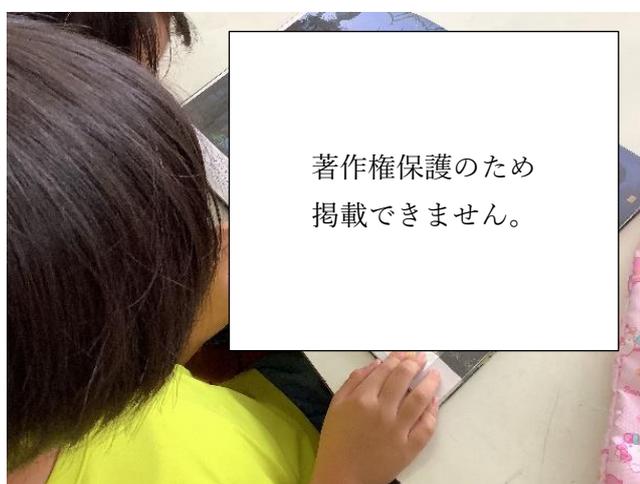
読書センターとして	読書環境の整備 委員会活動の充実 地域ボランティアによる読み聞かせ
学習センターとして	図書館を活用した授業の支援 オレンジBOXの紹介と貸出
情報センターとして	新聞コーナーの整備 中学校区での郷土資料の共有

(2) 今年度の本校の取り組み

○読書環境の整備

【リーディングトラッカーの活用】

読書バリアフリーを念頭に今年度は手作りのリーディングトラッカーを導入した。10mm幅（低学年用）、8mm幅（高学年用）の2種類を作成し、図書の授業時間内に紹介を行い児童に周知した。また低学年には全員にリーディングトラッカーを手に取り、資料に合わせて使ってみるというデモンストレーションを行った。紹介後は、いつでも誰でも活用できるように、図書館内のカウンター周辺にリーディングトラッカーを設置し、図書館内での使用を促した。リーディングトラッカーを導入したことで、図書の時間だけでなく教室でも教科書や資料を読む際に活用する児童の姿が見られた。



【新聞コーナーの整備】

児童玄関を入り、教室へ向かう廊下に新聞コーナーが設置してある。今まで朝日小学生新聞のみだった、新聞コーナーに新たに新潟日報の「まいにちふむふむ」を導入した。5年生では朝の会で、新聞から1つ話題を見つけて伝える活動をしており、毎日5年生の児童が必ず新聞をチェックしに来ていた。また、渡り廊下ということもあり、低学年の児童は通りかかった際、気になった写真をきっかけに記事を読み、活字に触れる良い機会となっている。

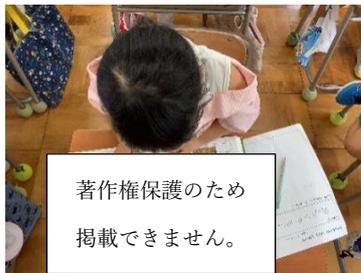


【先生方の「この本☆大好き」】

読書旬間でのイベントの一環として教職員の「この本☆大好き～おすすめの本紹介」を本とともに展示した。図書の授業時間に展示を説明すると、児童は楽しんで掲示を見ながら、今まで手に取ったことのなかった本に興味をもち、借りていく姿もあった。



○図書館を活用した各学年の授業実践

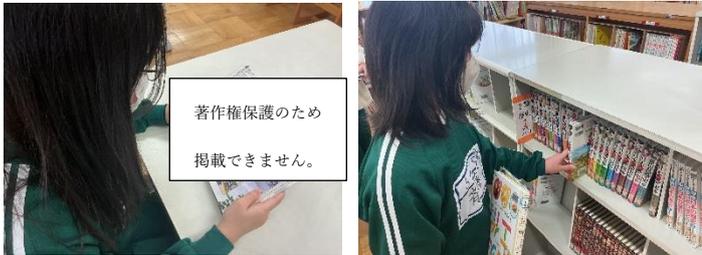
学年	教科「単元名」	図書館活用してみでの児童の様子、写真等
1年	生活科 「いきものとなかよし」	<p>生活科の学習で、児童が生き物の名前や飼育の仕方を調べる学習で、司書と連携して授業を行った。1年生は図鑑を使うのが初めてだったため、司書から図鑑の使い方を教えてもらいながら、調べ学習を進めた。また、様々な虫の飼育方法について詳しく書かれた本をオレンジボックスで取り寄せてもらい、児童の実態に合わせて調べ学習を行うことができた。児童は自分の捕まえた虫について、意欲的に調べ、飼育活動に生かすことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">著作権保護のため 掲載できません。</p>

学年	教科「单元名」	図書館活用してみての児童の様子、写真等
2年	国語 「かきこじぞう」	<p>国語科「かきこじぞう」では、「昔話の面白いところを見つけて1年生に紹介しよう。」という学習目標を設定した。</p> <p>司書からは、学校にある昔話の本を学級用に用意してもらったり、読み聞かせのコツなどを聞いたりしながら学習に取り組むことができた。</p> 

学年	教科「单元名」	図書館活用してみての児童の様子、写真等
3年	国語 「道具のひみつを伝えよう」	<p>身の回りの道具について、調べて分かったことをロイロノートでレポートにまとめるために、図書館利用をした。この单元では、インターネットで調べたことをまとめてもよかったのだが、3年生の発達段階ではインターネットの情報を選択し、自分の言葉でまとめるのは難しいため、本の利用は欠かせなかった。今回の図書館の利用を通して、自分で選んだ身近な道具が載っている本の中から、レポートに必要なところを見つけて選び取る力が身に付いた。</p> <div data-bbox="879 1352 1422 2024" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ハブラシのひみつ</p> <p>1 調べた理由 わたしがいつも使う道具は、ハブラシです。ハブラシがなければ、はをみがくことができません。そんな素晴らしいハブラシの毛のかたさやれきしを知りたいと思い、調べてみました。</p> <p>2 調べ方 図書館で図かんをはじめ、ハブラシに書かれている本をさがしました。</p> <p>3 調べて分かったこと (1)ハブラシのれきし 今から3500年以上前古代エジプトでは、「テュースティック」という物でハミガキをしていました。テュースティックは、小さく切った木のえだの一方のはしをかんでやわらかくした物で、これに植物の実などから作ったハミガキをつけてみがいっていたそうです。</p> <p>(2)ハブラシの毛のかたさのしくみ ハブラシのヘッド部分のあなの大きさは「かため」も「やわらかめ」も同じ。毛のかたさは、あなに植える毛の太さをかえてちようせつしています。小さな力でも曲がりやすい細い毛を植えると「やわらかめ」に、曲がりにくい太い毛を植えると「かため」になります。</p> <p>(3)ハブラシの金がたがができるまで 金がたのせつばい→こうざい手配・かこうてじゆんの洗いで→かこう→組み立て・仕上げ 金がた作りにひつようなこうざいや工具を手配するとともに、どのじゆんばんでかこうしていくかをきめます。</p> <p>4 まとめ ハブラシのひみつを調べて、私はハブラシのれきしの年はけこう古い古代ぐらいの時にハブラシが生まれてそこから日本にひろまりました。さいしょにえとじだいに広まった「ふさようじ」というものでシャカシャカみかいていて、そして2000年にちかくなつたころに今のようになじハブラシがたんじようしたようです。</p> <p>調べるときに使った本(やウェブページ) ・「ハブラシ作りのひみつ 日本P T A 全国2016年」</p>  </div>

学年	教科「单元名」	図書館活用してみての児童の様子、写真等
4年	国語 「和と洋新聞を作ろう」	<p>身の回りの「衣・食・住」の和と洋について調べ、新聞を作るために図書館を利用した。本单元では、児童が自分の選択したテーマに沿った内容の図書を探すために、手に取った図書の内容に大まかに目を通す必要がある。そうすることで、児童は自分のテーマにとって有益な情報を入手できるようになる。これは、インターネットで無数にある情報の中から検索して探し出すよりも、簡単かつ確実であったと感じる。児童も意欲的に学習に取り組んでいた。</p> 

学年	教科「单元名」	図書館活用してみての児童の様子、写真等
5学年	国語 「注文の多い料理店」	<p>本单元では、物語の魅力として「①紳士の人物像②戸の言葉と紳士の考え方のズレ③表現の工夫」を取り上げた。初読の段階では、子どもたちは①②は気付けたものの、③については注目できなかった。</p> <p>そこで、司書からブックトークをしてもらい、宮沢賢治の面白さとして、オノマトペを取り上げてもらった。その後、ブックトークで紹介した本以外にも、宮沢賢治の著書や伝記を学級に置いた。すると、授業中の追究活動の中でも、その本を用いて考えを深める児童が見られた。</p>    <p>↑ 学習のまとめとして作成したポップカードは、学年の廊下に掲示した。</p>

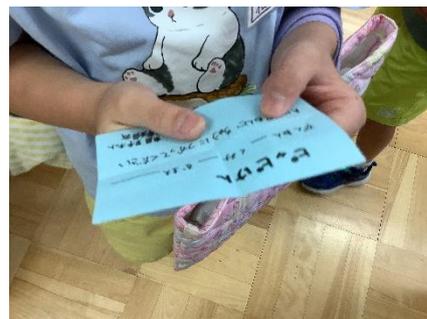
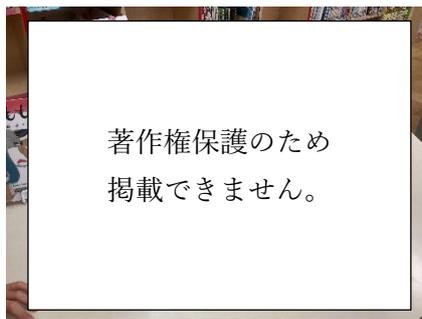
学年	教科「单元名」	図書館活用してみての児童の様子、写真等
6年	社会 「武士の政治が始まる」	<p>社会の歴史の学習で図書資料を活用した。人物についての本や歴史上の物語について書かれた本を読むことで、児童は出来事の背景や人物像についてより深く知ることができ、学習を深めることができた。</p> 

○委員会活動

図書委員会の日常活動では15分休み・お昼休みの貸出業務、本の整理、おすすめの本の紹介、多読者やイベントの紹介放送を行っている。6月にはミニ読書週間、11月には読書旬間を開催し、学校全体で図書館を楽しむイベントを開催した。また、12月にはクリスマス読み聞かせ会の運営も行った。

【ミニ読書週間（6月開催）】

1週間という短い期間での開催だった。イベントは15分休み・お昼休みに指定された本（教科書に載っている本と各学年おすすめの本）を借りるとくじが引け、図書館で使える券がもらえるという内容であった。教科書に載っている本や各学年おすすめの本は、普段手に取らない児童もいるため、今回のイベントによって初めて手に取る児童もおり、良い機会となった。くじでは、1～3冊余分に借りられる券や図書委員に代わって自分で貸出手続きができるピッピ券が人気だった。



【読書旬間（11月開催）】

ミニ読書週間よりも1週間長い約2週間の開催で、また事前に児童朝会においてPRを行った。児童朝会ではタブレットやフリップを用い、図書館クイズや読書旬間でのイベント紹介を伝えた。

イベント内容はビンゴゲーム・図書委員会による読み聞かせ・図書委員会のおすすめ本紹介を行った。今回、ビンゴがそろそろもらえる景品の中に新たに図書委員がタブレットを利用し作成したしおりも加わり、人気だった。



【クリスマス読み聞かせ会】

12月には地域コーディネーターの協力のもと、読み聞かせの会『ぼけっと』さんに読み聞かせをしていただいた。図書委員は告知のための放送や、当日の司会・運営を行った。多くの児童が集まり、クリスマスにちなんだお話を楽しむことができた。

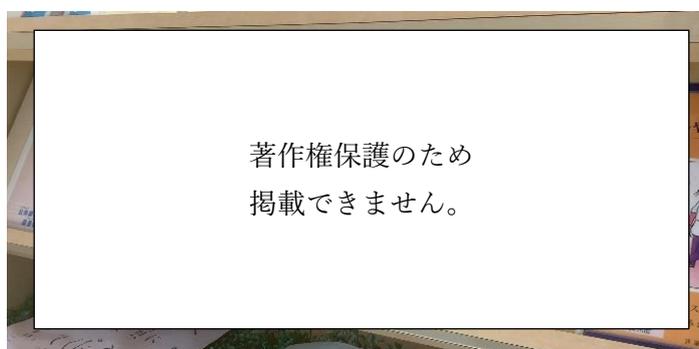


○各種教育との連携

【保健教育】

歯と口の健康週間

12月上旬にあった「歯と口の健康週間」において、養護教諭と連携し歯や口に関する資料を公共図書館から借り、また自校にある資料も併せて展示した。「歯と口の健康週間」の際にあった図書の授業時間内でPRし、資料を展示することで児童の歯や口に関する興味や関心を高めることができた。



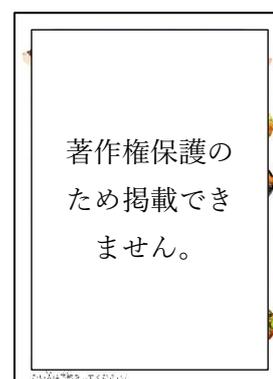
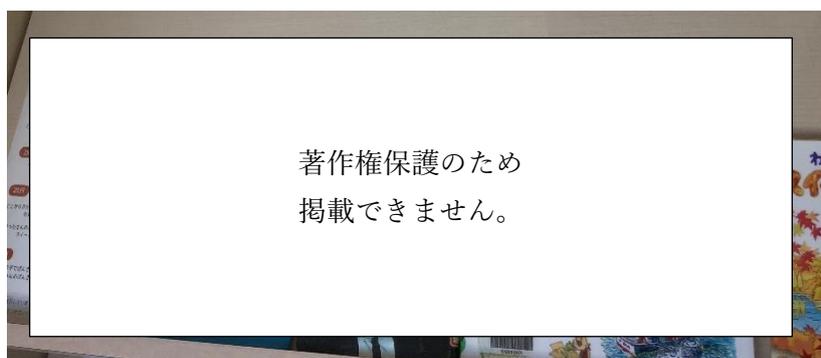
生活チェック週間

12月の「生活チェック週間」では、11月の読書旬間の取り組みを生かすために、生活チェックカードに「家で読書をした」という項目を新たに設けた。それに伴い、図書館だよりを通して「うちどく」を紹介し、保護者にも読書への取り組みに関心をもってもらえるように周知した。



【給食教育】

11月下旬の読書旬間の際、栄養教諭と連携し給食とのコラボレーションメニューを計画した。物語に出てくる料理を給食に出し、当日の昼の放送で該当の絵本や図書についてPRを行った。



(2) 曾野木中学校区での連携

①おすすめ本と紹介・ポップの展示

曾野木小学校と「この本☆だいすき～おすすめの本紹介」の活動に取り組んだ。各校で書いた紹介文を交換し、掲示した。また、曾野木中学校にも送付し、中学校でも掲示をしてもらった。曾野木中学校からは、生徒が作成したポップをお借りして図書館前に展示をした。児童たちは、自身が中学生になったらこのようなものを作るのかといった中学校生活に興味をもったり、こんな本を読みたいと中学校の図書館へ行くのを楽しみにしたりしていた。



②郷土資料リストの作成

中学校区三校で、曾野木地区・新潟市・新潟県の郷土資料リストを作成した。三校で資料の有無を確認、共有し、リストを各校の図書館に所蔵する。今後の地域に関する学習などで役立てたい。また、教職員にPRするなど周知に努めていきたい。

(3) 成果と課題

今年度は、環境整備に重点を置き、誰でも図書館を利用しやすく、本に触れる機会を増やせるように環境づくりに努めた。また、学校での取り組みだけでなく、家庭でも読書に取り組めるように生活チェック週間を通して、保護者にも「うちどく」を紹介することができた。図書館を活用した授業実践では、各学年の実態に応じて、司書と連携しながら様々な教科で図書館を活用することができた。

一方、課題として、今年度は環境整備・周知に重点を置いたため、昨年度の図書館利用状況との比較や、様々な企画を通して図書館に対する児童の意識がどのように変化したのかなどについて詳しく調査・分析することができなかった。今後は、環境整備だけでなく利用状況や児童の意識調査等を行いながら、よりよい図書館を運営していけるように努めていきたい。